



乳用牛群検定普及定着化事業

検 定 組 合

牛群検定だより

第3号 (2006.6)

発

発行元：(社)家畜改良事業団 電子計算センター
 〒107-0031 東京都中央区京橋1-19-8 大野ビル2F
 Tel 03-3561-8191 FAX 03-3561-8166
 e-mail : webmaster@liaj.or.jp URL : http://liaj.lin.go.jp

指導機関の側面協力で

東京都の酪農家は頑張っています!



東京都の牛群検定普及率は関東でトップ。島しょを除く検定農家比率で40%以上、検定牛比率で約57%に達する。この背景には酪農家を減らしたくない、脱落を食い止める手段として検定農家を増やしたいという指導者の皆さんの熱い思いが感じられる。

本庁、普及センター、農林総合研究センター、家保、農林振興事務所、都酪農協など各関係機関が連携して検定農家を巡回し、現場に入って牛群検定の情報分析指導を熱心に実施しておられる。

この体制で懸案の乳質対策にも取り組み、年間を通じ都全体の平均体細胞数は関東管内でもっとも低く、16年は24万台まで改善された。

都の乳質改善検討会による調整、酪農協主催の乳質検討委員会による委員（生産者）の巡回指導、家保が協力しての月3回のバルク乳検査、品質共励会開催などの活動が行われてきた。結果的に、体細胞数40万以上の層が30%から16%に減り、奨励金の支払い額が増えて予算オーバーを来たす程、嬉しい悲鳴がでるような底上げができたそうである。



牛群検定推進の立役者、農業振興事務所の
杉村課長補佐（左）と小澤次席

(文責 : M.S)



都酪農協

東京都牛群検定組合

事務局 〒190-1221
西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎99
東京都酪農協内
電話042-557-0074

都酪農協
組 合 長 細野修一さん

牛群検定の実施状況（島しょを除く）

検定農家数	33戸	検定牛頭数	1,016頭
酪農家戸数	82戸	経産牛頭数	1,785頭
検定農家率	40.2%	検定牛率	56.9%



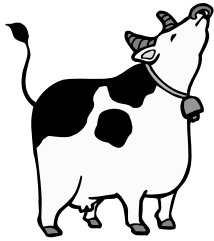
細野検定組合長



酪農協の古田土技師

- 都の牛群検定は、土地柄戸数・頭数こそ少ないが、年々着実に実施率を上げている。検定農家の意欲に指導機関が応える好ましい体制で、他県も見習ってほしい関係である。
- 都の島しょの酪農家は10戸で、148頭（うち経産109頭）が飼われている。検定加入の要望があるが、サンプルの検査体制などがネックになって牛群検定は未だ実施されていない。





情報の分析・指導活動

- 東京都では、指導者が牛群検定データを分かりやすく分析し、現地で活用法を指導している。



清瀬市・増田牧場（左）練馬区・小泉牧場（右）での分析指導研修会



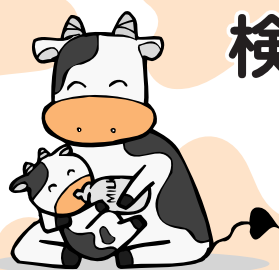
- 酪農家の夢を実現するミルク工房の出店が盛んで、都内の生乳生産量の2%相当分が消費されるといわれる。また、ロボット搾乳の大型牧場の出現も間近で、今後色々な経営スタイルが見られよう。



日野市・大木牧場での研修会



大木牧場のアイスクリーム工房



検定成績表の

期待量・補正量

を活用しよう

- 検定牛が分娩後45日を経過し、2回の立会を終えると、「305日実量又は期待量」と「補正量」が表示される。
- 305日実量とは、文字通り305日間の実績で、その後に検定日数が増えても、その乳期の数字は動かない。
- 期待量とは305日に達する前の経過記録で、その乳期にどの位の生産量が期待できるかが早期に分かり、また月々の飼養管理の適否の検討ができる。
- 補正量とは、条件（月齢、産次、分娩月、搾乳日数・回数など）の異なる牛を同じ土俵で比較できる成牛換算値。成牛になった時の成績を示すので、若い牛ほど補正量と実量・期待量との差が大きい。

補正量と期待量の産次別パターン

産次	補正量	期待量	差
初産	8,815 kg	6,909 kg	1,906 kg
2産	9,051	8,141	910
3産	9,352	8,863	489
4産≤	8,931	8,752	179

- 補正量と「牛群改良情報」の育種価（EBV）との主な違い。

補正量	育種価（EBV）
遺伝的能力+飼養管理を示す	遺伝的な能力を示す
6段階表示	10段階表示（%順位も）
乳量だけの評価	乳成分・体型成分も含む評価
血縁関係の構築がなくても表示	血縁関係が構築されないと白紙

- 補正量の活用の一例（初産と2産の記録の比較）

初産記録が低く、2産記録が高い ➡ 育成管理に問題？
 初産記録が高く、2産記録が低い ➡ 乾乳期の飼養管理に問題？
 初産記録、2産記録とも高くない ➡ 種雄牛選びに問題？